

令和6年度「学校評価」の考察

1. 全体として

本年度は、校長、副校長をはじめ多くの職員の異動があった。コロナ禍が落ち着いてきたことや、昨今の働き方改革等の流れも踏まえ、本年度の学校評価は、昨年度といくつかの点を変更し実施した。

質問項目は、保護者・教職員を対象に昨年同様の20項目とし、Formsを利用して実施した。紙のアンケートにも対応する旨は伝えたが申し出はなかった。昨年度までの5段階評価の「3.ふつう」をなくし、4段階評価とした。また、「2.やや悪い」「1.悪い」を選択した場合には、その改善のために理由や改善策を記載してもらった。

保護者56人のうち51人から回答を得た（回答率91%）。

2. 保護者・教職員の共通項目について

20項目すべてにおいて保護者の評価は高かったが、それに比べ教職員の評価は低い傾向が見られた。職員が学校の状況や課題に対して真摯に受け止め向き合っている結果と捉えている。（数値は別表）

（1）学校経営に関して

保護者は回答者全員が、「4.よい」「3.おおむねよい」を選択している。一方、教職員からは、「個別の指導計画を一層効果的に教育活動に生かしたい」という意見が複数あった。「個別の指導計画」は子供たちの教育にとって重要なツールであることから、効果的に活用できるようにしたい。また、「副校長の1年異動が数年続いていて、前年度の反省が生かしきれていない」という意見があった。引継ぎの重要性を実感するとともに、できる限り複数年の勤務となるよう市教委、県教委に働きかけていきたい。

（2）教育課程について

保護者からは、全体として良い評価をいただいているが、「保護者のニーズにもっと耳を傾けてほしい」という意見もあった。一意見ではあったが、真摯に受け止め、保護者の声に一層耳を傾けられる体制を整えたい。

教育課程に関する項目の中で、保護者、教職員に共通して、最も評価が高かったのは、給食指導についてであった。栄養教諭の給食調理や配膳等へのきめ細かい対応に加えて、各学級における丁寧な給食指導が高評価を得たものとする。

防災・安全指導に関しては、教職員から「防災訓練の設定が今年度十分ではなかった。年間計画に早めに入れていく必要がある」との声もあり、昨今の自然災害等の状況も鑑み、一層充実した体制を整えていきたい。災害はいつ・どこで・どのように発生するか

わからない。非常時において適切な対応をすることができるよう様々な場面を想定した実効性のある訓練を実施し、防災・安全への意識を高めるとともに、マニュアルの見直しにも取り組んでいきたい。

(3) 教職員について

保護者の回答者全員が、「4.よい」「3.おおむねよい」を選択している。教職員からは、「子どもの特性や実態を的確に捉えようと努力している」の項目で、「個々の教員の力量に任されてしまっている面が強い。自立活動の研修会及び実態の捉え直しをする機会の設定が必要」との声があった。全ての教師が自信をもって勤務できるように研修等の充実を図っていきたい。

(4) その他の項目について

他校の児童生徒や地域との交流については、一層の充実を望む声があった。評価も、保護者、教職員ともに、最も低い値となっている。積極的な交流及びその発信方法について検討していきたい。

また、校舎改修によるものと思われるが、施設設備に関する評価は他と比べ低かった。改修工事の終了により、新しい環境でよりよい状況を整えるようにしたい。

3 学校評議員より

○防災・安全指導に関して、3.11の時のことを思い出すと、登下校時の対応も必要だと感じる。自主通学の生徒のことも踏まえた指導を重ねてほしい。

○「保護者のニーズにもっと耳を傾けてほしい」という言葉の中には、それぞれの思いや考えがあるだろう。日常的に連絡帳などを利用して連携を深めてほしい。

4 総括

保護者から、多くのねぎらいや感謝の言葉、働き方改革の推進などの声が寄せられ、学校改革に向けた後押しとなっている。さらに、「教員の負担も大きくお忙しいとは思いますが、なるべく業務を減らした上で、特性のある子供への対応のスキルアップを目指して欲しい」と、我々教職員のスキルアップを望む声も寄せられている。

これからも、「児童生徒が毎日通いたい学校」「保護者が毎日通わせたい学校」「職員が毎日勤務したい学校」の実現に向け真摯に取り組んでいきたい。